私の横越町 思いさまざま（シリーズ①）

町制施行にともない今月より「私の横越町思いさまざま」と題し、小・中学生の児童、生徒を含む町民の方々の夢や希望についてシリーズで紹介していきます。

横越町連合婦人会長
佐久間　順

町・緑・自然を大切に

私達の地域が合併し、横越村として発足して９５年という、平成８年１１月１日を期して、横越町として発足する事を心からお祝い申し上げます。この良き日に、めぐり合いました事を喜んでおります。これも町長様始め歴代の多くの方々のご努力と、ご功績のお蔭と感謝致しております。お聞きするに町制と共に私達の町にも、保健センターの建設、老人福祉問題が大きく前進するとの事。長い間、婦人会も希望し心待ち致した事が、現実のものとなり喜んでいます。また道路も整備され、家並みも立派に変貌されて行きます。私達婦人会も人にやさしい、町・緑・自然を大切にし、町づくりにこれからも努めたいと、心に決めているこの頃であります。

中１年　中川　恵

私の村が町になる。今まで横越村だったのが、横越町になるといわれ、うれしい反面少しさびしい気がします。家族や友達は喜んでいるけれど、『横越も変わっていくんだな』と思うと、やっぱり少しさびしいです。

でも、横越がこれからどんなふうにかわっていくのかが、とても楽しみです。

私が大人になって、横越にいるかどうかは分からないけれど、発展した横越町が、今のきれいな空気を汚し、きれいな田畑のすべてが店や道路でつぶされて、『横越』でなくなってしまう町にだけはならないでほしいです。

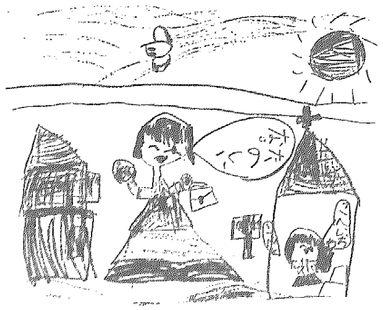
横越町になっても、いつまでも、私の大好きな、すべてが美しいままの〝横越〟でいてほしいと思います。

小１年　田中　渚

わたしは、よこごしが、まちになるのがたのしみです。

わたしは、どんなおとなになるのかな。わたしはいっぱいしごとができるかな。

わたしは、あいすくりいむやさんになりたいです。



中１年　片山　篤

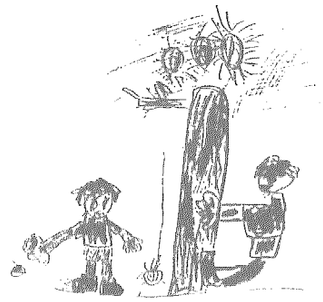
「横越村」子供のころから聞いたり、書いたり、しゃべったりしていた横越村が「横越町」になる。これは、昔から横越村にいた人々が良い横越村を築こうと努力をかさね、横越村に住む人が一人また一人とふえつづけ、そしてついに人口一万人を越えた結果だ。1996年の11月には町になり、次は僕たちが良い村作りのあとをつぎ、良い「町」作りを行いたい。おじいさん、おばあさん、父さん、母さんたちが作った横越を、より良くし、横越町の「人口」、「くらし」、「発展」の前進を心からねがい、がんばりたい。

そして横越の発達を一歩一歩確実に、そして正確に進め、だれにも愛される横越町を作って行きたい。

財団法人北方文化博物館長
伊藤文吉

母の国・父の国

ドイツで「母の国」と尋ねると自分が生まれ育った町を意味し、「父の国」と尋ねると祖国ドイツを意味する。日本では祖国と故郷の区別が曖昧であるが、ドイツでは厳然と区別をしている。母の国は、少々の過ちをしても許してくれ甘えられる所なのであるが、父の国は各個人に対して冷酷なまでに厳しく責任と義務を科する所なのである。私達の横越町も先祖から長く馴染んで来た〝村〟から〝町〟に変わる事になった。人間に第二の人生があるように横越村にも第二の人生が来たのである。村から町に変わったとしても横越町はドイツで言う「母の国」なのである。しかし我々町民は、それなりの責任と義務を持たねばならない。

小１年　田中　亮

ぼくは、おねえちゃんとおにいちゃんとおとうさんとおかあさんと、くりひろいにいきました。くりをいっぱいひろいました。うちにいってくりをたべました。くりごはんにもしました。よこごしまちになったら、くりひろいができるところがあったらいいなあとおもいます。